

有明海西南部地区ノリ養殖生産安定対策事業

岩永卓也・野口浩介

有明海西南部地区のノリ生産安定を図るため、同地区の流況および生態系モデルの構築に必要な植物プランクトン (*Skeletonema* spp. および *Chaetoceros* spp.) の出現状況等の調査を実施した。

日の期間に渦鞭毛藻 *Akashiwo sanguinea* 赤潮が、2月9日から4月10日に珪藻 *Eucampia zodiacus* 赤潮が発生し、栄養塩を消費していたためである。

方法

2023年10月から2024年3月にかけて、週1~3回程度の定期調査を実施した。図1に示す白石沖ブイおよび箱崎沖ブイにおいて、昼間満潮の前後2時間以内に採取した海水を持ち帰った後、*Skeletonema* spp. および *Chaetoceros* spp. の細胞密度および溶存無機態窒素 (DIN) を測定した。

結果

2023年度ノリ養殖漁期の白石沖ブイおよび箱崎沖ブイにおける *Skeletonema* spp. および *Chaetoceros* spp. の細胞密度とDINの推移を図2および図3に示した。今漁期は、*Skeletonema* spp. および *Chaetoceros* spp. を含む混合赤潮が2件、*Chaetoceros* spp. を主体とする混合赤潮が1件確認された。

白石沖ブイのDINは11月7日、11月17日および3月25日を除き、ノリの色調維持に必要とされる7μM以下であった。*Skeletonema* spp. の細胞密度は、9月末に赤潮化したため、10月6日にピークを迎えたが、10月11日には減少し、10月16日には終息を確認した。*Chaetoceros* spp. の細胞密度は、ノリ養殖漁期を通し概ね低い値を示した。

箱崎沖ブイのDINは、3月25日を除き7μM以下で推移した。*Skeletonema* spp. の細胞密度は、10月6日に高い値を示したが、10月23日には減少し、その後は概ね低い値を示した。*Chaetoceros* spp. の細胞密度は、11月30日に増加が確認されたが、漁期を通し概ね低値で推移した。

ノリ養殖漁期を通して *Skeletonema* spp. および *Chaetoceros* spp. の細胞密度が低い値で推移にも関わらず、DINが低値であった理由として、11月9日から12月28

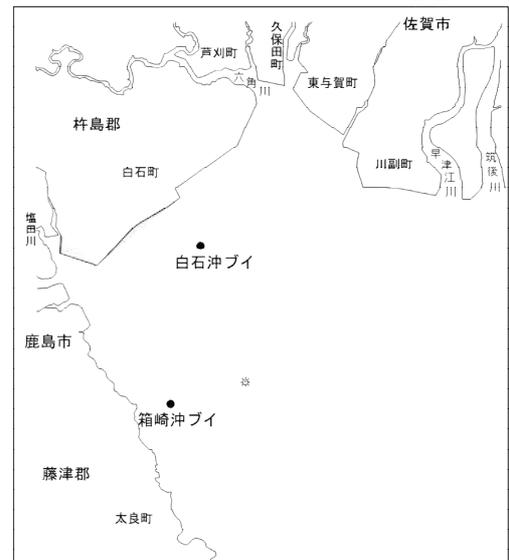


図1 海況調査地点

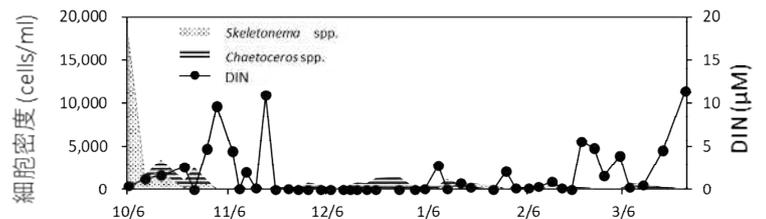


図2 白石沖ブイにおける *Skeletonema* spp. および *Chaetoceros* spp. の細胞密度とDINの推移

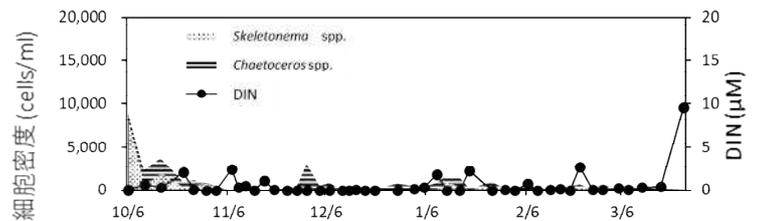


図3 箱崎沖ブイにおける *Skeletonema* spp. および *Chaetoceros* spp. の細胞密度とDINの推移